

令和8年度 三原市生活支援体制整備事業 計画

— 孤立せず、選択肢をもち、自立^(※)した暮らしが継続できる地域づくり —

三原市は、「つながり、支え合い、安心して暮らせる 地域を育む共生のまち みはら」を基本理念に、地域福祉の推進を通じて地域共生社会の実現を目指しています（第4期三原市地域福祉計画：令和6年度～令和11年度）。

目指す地域共生社会とは、住民一人ひとりが思いやりをもってつながり、住民・地域・団体・行政など多様な担い手がそれぞれの役割を活かしながら支え合い、誰もが孤独や孤立を感じることなく、住み慣れた地域で暮らし続けられる社会です。

生活の中で、ちょっとした困りごとや不安を抱えたとき、「相談できる人がいる」「選べる支えがある」ことは、地域で暮らし続けるための大きな力になります。

三原市生活支援体制整備事業（以下「本事業」）では、協議体（地域福祉ネットワーク会議）を基盤に、地域住民と福祉の専門機関が顔の見える関係で話し合い、地域の実情に応じた支え合いの仕組みづくりを進めてきました。

令和8年度においても、これまでの取り組みを大切にしながら協議体を中心に、「活動をつくろう」「活動に参加しよう」「地域を知ろう」「気にかけて、支え合おう」の4つを柱として、住民主体の活動づくりや人材育成、介護予防の取り組みを進め、困りごとや不安があっても一人で抱え込むことなく、地域の中で支え合いながら安心して暮らしを続けられる地域づくりを目指します。

「孤立せず、選択肢をもち、自立した暮らしが継続できる地域づくり」 すすめるための基盤と柱

【基盤】 話し合おう (P.2)

【柱1】 地域を知ろう (P.3)

【柱2】 活動に参加しよう (P.5)

【柱3】 活動をつくろう (P.7)

【柱4】 気にかけて、支え合おう (P.9)

(※) 本計画での「自立」とは、多様な支援を受けながら自己決定に基づいて主体的に生活を営み、その能力を活用して生活・社会活動に参加することを指します。

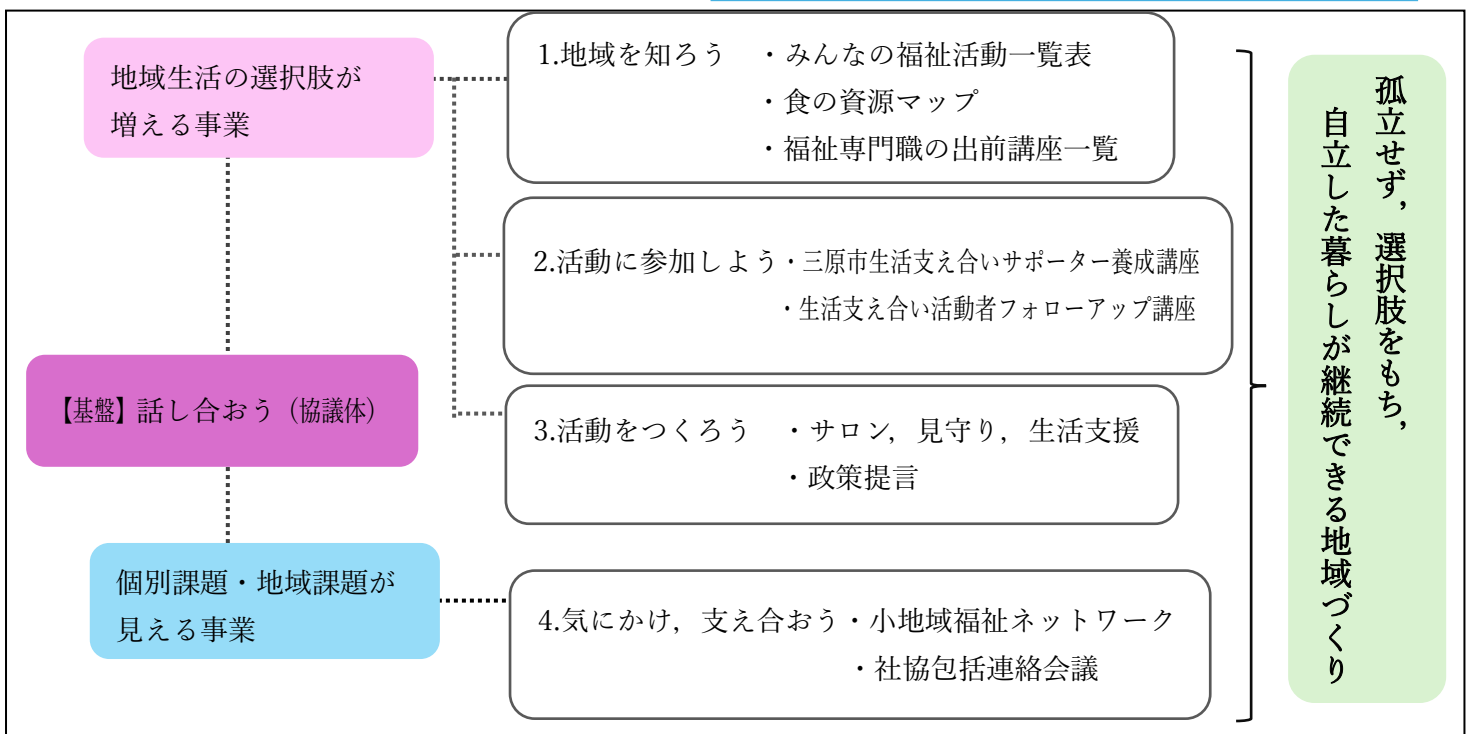
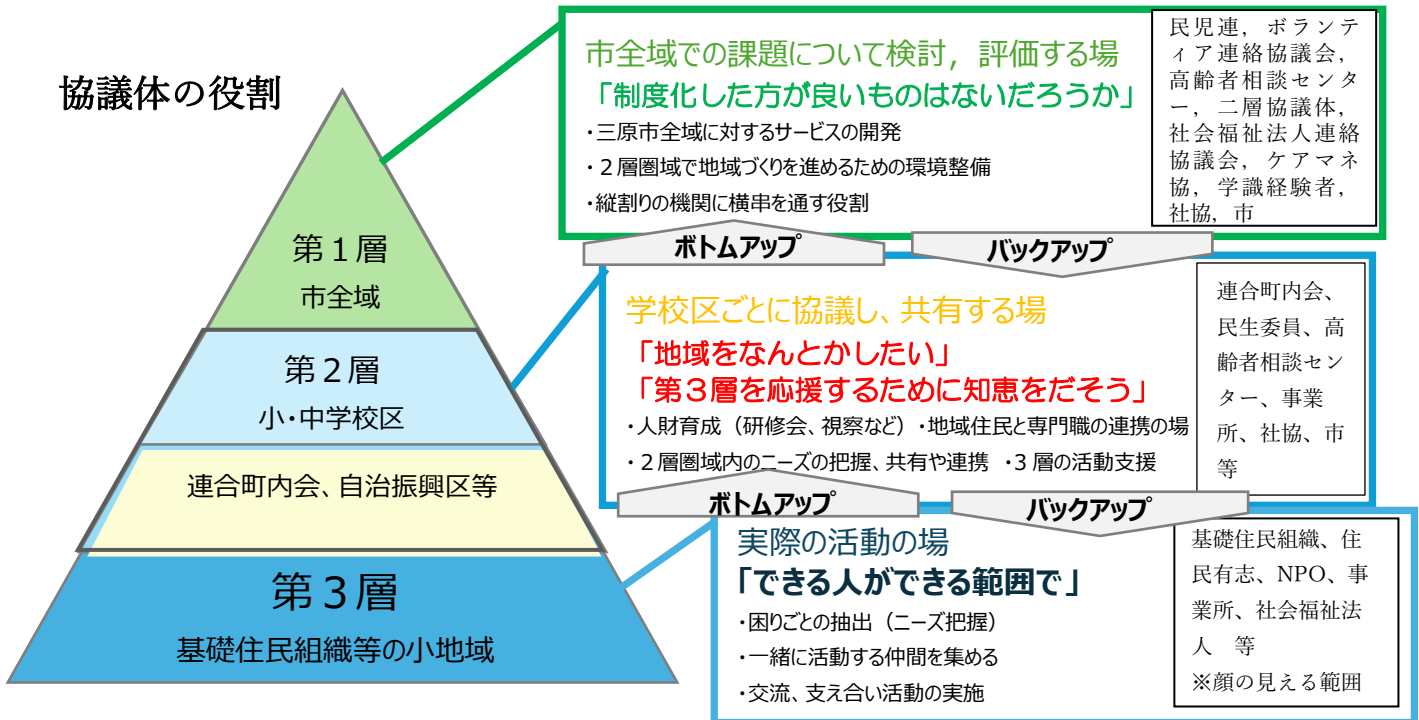
「孤立せず、選択肢をもち、自立した暮らしが継続できる地域づくり」

事業の全体像

地域生活を継続するための社会資源のあり方は、地域によって多様です。そのため、第1層～第3層協議体では地域ごとの生活課題に合わせて話し合い、あったら良い取り組みを考えます。

一方、近年は近隣関係の希薄化から住民の困りごとが見えにくい状況があります。

本事業では、地域生活の選択肢を増やす取り組みと併せて、生活課題・地域課題が見える取り組みを推進し、地域生活で困りごとを抱える高齢者へのインフォーマル資源のコーディネートを含む、地域生活が安心して継続できる地域づくりの実現を目指します。



『地域生活の困りごとを知り，困りごとの解消に向けて話し合う，
地域づくりのエンジン。』

第1層（市全域）

- ・第2層の地域課題や，支え合い活動を知り，三原市地域包括ケアシステム構築を進める環境整備をする。
- ・市全域に必要な新たな社会資源を考え，政策提言する。

取り組み

生活支援体制整備協議体（第1層）の実施 など

第2層（小中学校区）

- ・住民の生活課題を知り，地域にあったら良い社会資源（福祉学習，集い，見守り，生活支援など）を考え，第3層に拡げる。
- ・今ある社会資源では解決できない地域課題を第1層へボトムアップする。

取り組み

地域福祉ネットワーク会議の実施，地域ケア会議との協働
地域福祉懇談会，サロン交流会の実施

第3層（基礎自治組織）

- ・生活課題への支え合いを考える小地域福祉ネットワーク（※）の実施。
- ・校区内の自治組織や，専門機関が地域福祉ネットワーク会議（第2層）へ参加する。

取り組み

サロン運営会議や見守り活動連絡会議，自治会座談会 など

（※）小地域福祉ネットワーク…自治組織や民生委員児童委員，ボランティア活動者などが身近な地域の福祉を話し合い，専門機関と相談しあえる関係。

生活支援体制整備協議体での意見

- 地域課題に合わせて，話し合いの場の役割分担ができると良い。
- 活動づくりや，運営について話すには，第3層～小地域での協議が重要。

計画の柱1 地域を知ろう

『地域にある社会資源を知り、暮らしかたの選択肢を増やす。』

社会資源マップの作成（第1層）

令和7(2025)年度 生活支援活動						
No.	地区	団体名	対象者	利用料	問い合わせ ①受付時間 ②連絡先	活動内容
1	全域	三原市社会福祉協議会 沼田東ダイヤハイイツ ご近所おたがいきま活動 「ほっとはーと」	三原市に住んでいる人	・300円/時間 ※1回2時間が上限 ※原則月2回まで	①月～金曜 8:30～17:15 ②三原市社会福祉協議会 三原:0848-63-0570 本郷:0848-86-3607 久井:0847-32-7101 大和:0847-34-1214 ※本人と支援者が一緒に活動する	掃除 電球 ゴミ 家具 話し 見守り 草取り 付添 その他
2	三原	ステレオガン 沼田東ダイヤハイイツ NPO法人三原ダイヤサロン 「オタスケマン事業」	ダイヤハイイツ全住民	・ゴミ出し:50円/回 ・送迎送迎:100円/片道 ・駅前送迎:400円/片道 ・その他支援:750円/時間	①月～金曜 10:00～16:00 ②0848-66-2144 (三原ダイヤサロン) ※前日までに予約連絡	掃除 電球 ゴミ 家具 話し 見守り 草取り 代行 付添 その他
3		オサカタンチ 小坂団地自治会 「お困りごと支援活動」	小坂団地自治会 全住民	・見守り、安否確認、災害時 支援:無料 ・電球交換:100円/1カ所 ・その他支援:750円/時間	活動内容別にチーム編成しており、 各チームリーダーが直接ご相談、ご 依頼を受け付けます。 ※連絡先は住民全戸に配布済	電球 家具 見守り その他 電球

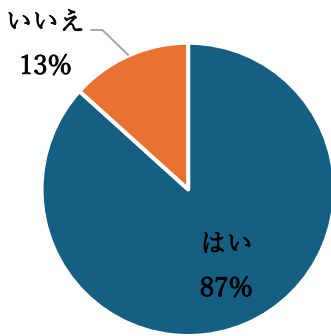
(上記) みんなのふくし活動一覧表

商品を配達してくれるお店		
エリア	店名	連絡先
三原市全域	生協ひろしま 三原支所	0120-500-935
三原 地 域	まつたのストアー (有)松野保商店	0848-62-7448
	やおやの花ちゃん 花田屋	0848-62-6355
	セブンイレブン須波店	0848-64-1151
	セブンイレブン沼田西店	0848-66-3710
三原 ・ 本 郷 地 域	イオン三原店	0848-62-8888
	フジグラン三原	0848-61-0011
	ときわ薬局	0848-62-2953
	朝比奈屋	0120-260-846
	グリーンコープ生活協同組合ひろしま	084-991-4988
	キッチンイシイ “佐くら”	0848-25-5395

(上記) 食の資源マップ

(下記) 食の資源マップ掲載店舗アンケート調査

みんなの福祉活動一覧表を見て、活動の紹介や参加がしやすくなりましたか？



- ・利用者のうち、みんなの福祉活動一覧表（87%）、食の資源マップ（91%）が、参加・利用しやすいと回答。
(意見)
- ・地域の活動がまとめてあって助かる。
- ・見守りしながらお弁当を配達してくれて助かる。
- ・配達困難地域がある。 など



(上記) 福祉専門職によるサロンでの出前講座の様子

福祉専門職の出前講座一覧表の実績

(三原市社協調整分のみ)

	R5年度	R6年度	R7年度
掲載業所数	35	40	40
出前講座回数	64	65	63

※R7年度は、R7年4月～12月末の実績

本事業において、令和6年度に受付けた個別相談のうち、82件をサロンや生活支援活動などのインフォーマルな社会資源につないでいます。また、資源マップの活用に関するアンケート調査では、約9割が「社会資源を活用しやすくなった」と回答しています。

令和8年度も、インフォーマル資源の情報発信と、高齢者や相談窓口による活用を促進し、地域生活の選択ができる地域づくりを進めます。

第1層（全市域）※生活支援体制整備協議体の役割

- ・地域福祉活動や、多様な主体の取り組み（公的福祉サービス以外）の社会資源マップを作成する。

取り組み

みんなのふくし活動一覧表・食の資源マップ・福祉専門職の出前講座一覧表の更新
出前講座（実施事業者、活用地域）の効果測定

第2層（小中学校区）※地域福祉ネットワーク会議の役割

- ・社会資源マップの周知や、活用を促進する。
- ・校区内の地域福祉の状況を、住民や関係機関に周知する。

取り組み

地域福祉ネットワーク会議の取り組みを情報発信する

第3層（基礎自治組織）

- ・地域にある社会資源を知り、暮らしの選択肢をもつ。

取り組み

社会資源マップの活用や、公的福祉サービス以外への参加や活用
出前講座に参加し、困りごとの相談窓口を知る

生活支援体制整備協議体での意見

- 公的サービスだけでは解消できない課題はあり、民間サービスの情報がまとめであると助かる。
- 困っていても相談窓口がわからない人が多い。



（左記）

サロンで生協を利用し買い物する、
サロン参加者（深小学校区）

計画の柱2 活動に参加しよう

『支え合う地域の基礎は人。』

活動を理解し参加へのきっかけづくり。』

活動参加へのきっかけづくり。

サロン送迎、乗り合わせで買い物など

高齢者のための移動支援講座

R7年度 三原市生活支え合いサポーター養成講座

2026 3月8日 ~~土~~ → 日曜
14:00~16:30

定員 15人 (先着順)

講師
(株)スミダ翼介護サービス
介護のプロから、送迎で気を付けるポイントをわかりやすく学びます。

会場
三原自動車学校
〒729-2361
三原市小泉町10160-4

こんなことが学べます！

- ✓ 乗り降りの注意点
- ✓ 運転中の配慮
- ✓ 高齢者を支援するときに気を付けること
- ✓ 送迎支援活動の補助事業

参加お申し込みはこちらから

(左記)

R7年度は、移動支援活動を検討しているボランティア向けに、生活支え合いサポーター養成講座を企画。

安心して活動できる取り組み。



(左記)

R7年度は「聴こえ」を理解して、コミュニケーションが取りやすくなるための、生活支え合い活動者フォローアップ講座の開催。

多くの地域福祉ネットワーク会議では「人材不足」の課題に悩んでいます。一方で、住民活動に参加している人からは、生きがいや楽しさを感じる声を聞きます。本事業では、住民活動の大切さを啓発し、地域づくりの理解を助け、活動参加のきっかけづくりに取り組みます。

また、活動を始めている住民には、活動上の不安を軽減するスキルアップ講座を開催し、安心して活動出来る環境整備を行います。

第1層（全市域） ※生活支援体制整備協議体の役割

- ・活動へ参加するきっかけづくりと、活動者同士が交流し活動が活性する講座を開催する。

取り組み

生活支え合いサポーター養成講座、生活支え合い活動者フォローアップ講座

第2層（小中学校区） ※地域福祉ネットワーク会議の役割

- ・多様な主体や多世代が地域福祉活動に参加するきっかけづくり。

取り組み

地域支え合いマップづくり、福祉学習会 など

第3層（基礎自治組織）

- ・地域福祉活動へ参加の声掛けや、参加を希望する住民と一緒に活動する。
- ・見守り活動や、支え合い活動の方法を学ぶ。

取り組み

介護技術や認知症などの学習会

生活支援体制整備協議体での意見

- いくつになっても活躍できて、元気で過ごせる活動者を増やしたい。
- 児童との取り組みや、協力してもらえる関係づくりがあると良い。



（上記）中学生と住民合同の支え合いマップ学習会（久井中学校区）

計画の柱3 活動をつくろう（社会資源の開発）

『地域みんなが互いに気にかかけ合い、

支え合う地域の資源をつくる。』

身近な地域にあったら良い社会資源（支え合い）をつくる。



（上記）出かける場所を目指した集いづくり
（南小学校区 皆実地域）



（上記）要支援者の外出を叶える移動支援
（南小学校区 宮浦地域）

住民同士がつながり、安心感が持てる地域づくり。

小泉町内会では見守り活動に取り組んでいます

見守りとは？ 地域で暮らす人同士が、お互いに気にかかけ合うことで、つながりを維持し、少し心配な人を早めに相談する活動です。

なぜ見守りなの？ 高齢化や、単身世帯が増えて、地域生活に不安や困りごとを抱える人が増えています。専門機関もありますが「もう少し早く相談されていれば…」というケースもあり、なるべく早く相談が繋がる取り組みが必要です。

小泉地域の高齢化率 (65歳以上の人の割合) 36.37% (R7年3月現在)	小泉地域の単身世帯率 約10%
---	---------------------------

（左記）
もう一度住民同士が気にかかけあう地域を目指した見守り活動の立ち上げ。（小泉小学校区）

インフォーマル資源が無く、社会参加する場がない、個別ケースをつなぐことが難しい地域があります。地域福祉ネットワーク会議や社協包括連絡会議などで「この地域にあったら良い社会資源」を話し合い、活動づくりに取り組みます。

近年では、住民だけで活動をつくる難しさも強く、地域の企業や福祉事業所との連携、必要に応じて政策提言による環境整備に取り組みます。

第1層（市全域）※生活支援体制整備協議体の役割

- ・三原市にあったら良い社会資源を考え、地域住民・専門機関・民間企業が連携しやすい環境整備に取り組む。
- ・対面に限らない「住民同士のつながり」のあり方を考える。

取り組み

新たな社会資源開発に向けた政策提言
生活支援活動団体情報交換会（仮称） など

第2層（小中学校校区）※地域福祉ネットワーク会議の役割

- ・地域課題に合わせて、支え合い活動づくりを考える。
- ・第3層だけでは難しい支え合いを、校区内の地域が協力して取り組む。

取り組み

校区型のサロンや、移動支援など生活支援の仕組みづくり
企業や、商店と連携した社会資源づくり
他地域の取組や、活動づくりの情報を知り、第3層へつなげる

第3層（基礎自治組織）

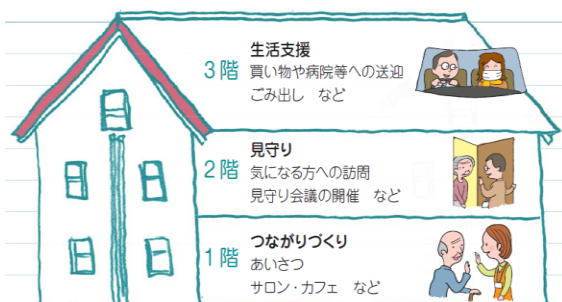
- ・住民同士の支え合い活動をつくる。
- ・見守りの輪を広げ、気になることを、第2層や相談窓口につなぐ。

取り組み

つながり・見守り・生活支援などの支え合い活動

生活支援体制整備協議体での意見

- 困っても「助けて」と言えない人が多い。頼みやすくなるための取組みがあると良い。
- 住民活動が支援することのハードルを上げるのではなく、「出来る範囲の支え合い」を進めていくことが大切。



(左記)

「つながり・見守り・生活支援」
3段階の支え合い活動推進

計画の柱4 気かけ、支え合おう

『住民や専門機関が特性をいかし、人と人が支え合う。』

社協包括連絡会議での個別支援協議件数（延べ）			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度（12月末）
相談件数	324	282	260
支え合い活動による支援件数	141	134	130

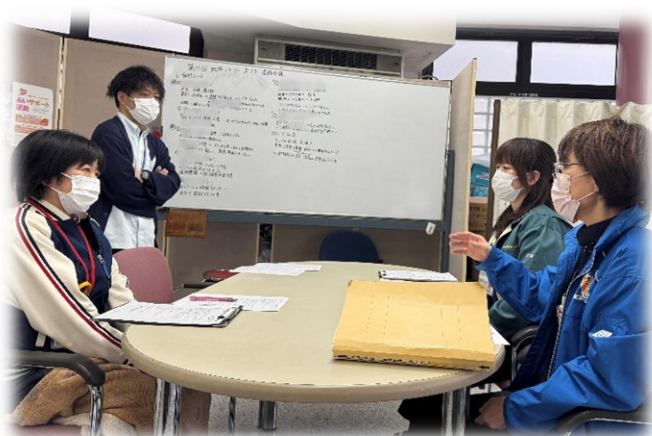
相談の多い困りごとの種別（令和6年度）	
1, 生活支援	4, 経済
2, 介護	5, 精神・メンタル
3, 住まい（ゴミ）	6, 社会的な孤立

住民だから出来る支え合い，なじみの関係づくり

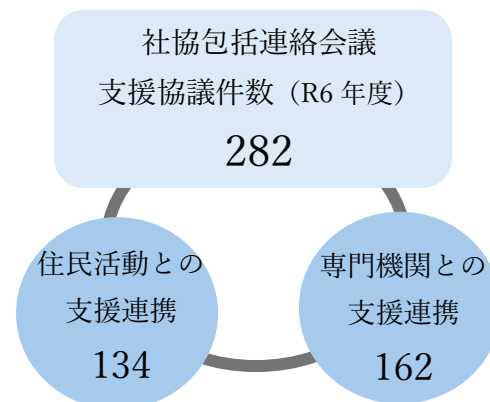


(左記)
話し相手による支援
「三原市認知症高齢者家族
やすらぎ支援事業」

住民活動と専門機関が連携して，支え合う



社協包括連絡会議の様子



令和6年度の社協包括連絡会議では、延べ282件の個別支援を協議しました。ニーズの多くは生活支援や孤立の課題など、継続的な関わりや、予防的な支援を必要としています。

住民活動による、早期発見や日常の支え合い、専門機関による支援など、課題の解消に向けたインフォーマル・フォーマルな社会資源へのつなぎを行います。

第1層（全市域） ※生活支援体制整備協議体の役割

- ・住民同士や、活動と専門機関が支援連携する大切さについて関係機関に発信する。

取り組み

生活支援体制整備協議体構成組織や、重層的支援体制整備運営会議での情報発信

第2層（小中学校区） ※生活支援コーディネーターの役割

- ・地域福祉活動や、福祉サービス単独では解決が難しい課題を、社協包括連絡会議や専門機関と連携し支援を図る。

取り組み

社協包括連絡会議など

第3層（基礎自治組織）

- ・民生委員活動や地域見守り活動により、心配な住民を気に掛け、専門機関へ早期に相談する。
- ・サロン活動や、支え合い活動により、身近な地域での社会参加や、困りごと支援を行う。
- ・専門職の出前講座を通じて介護予防に取り組む。

取り組み

サロンでの社会参加や、見守り活動や生活支援活動による支え合い
福祉専門職の出前講座の活用など

生活支援体制整備協議体での意見

- 民生委員や包括が知る個別課題と、地域の取組がつながることが必要。
- 包括、専門職、生活支援コーディネーターの連絡会議が重要になる。
- 声が出せない人のニーズ把握が課題。「困っているのではないか？」という仮設が大事。

令和 8（2026）年度 三原市生活支援体制整備事業 計画（案）

時期	事業
4月	
5月	
6月	第1回生活支援体制整備協議体 みんなのふくし活動一覧表 更新 食の資源マップ 更新
7月	
8月	
9月	
10月	第2回生活支援体制整備協議体
11月	
12月	生活支え合いサポーター養成講座 （2会場）
1月	福祉専門職の出前講座一覧表 更新
2月	
3月	第3回生活支援体制整備協議体 生活支え合い活動者フォローアップ講座